

石橋づくり体験塾 石橋の魅力に感嘆

3月21日、曲川橋展望所で「石橋づくり体験塾」を行いました。

この塾は、展望所の整備の一環として、小屋があった跡地に池を作り、ここに石橋を架けてみてはという発想が、関心ある人々に呼び掛けてみてはということになり、「石橋づくり体験塾」として川崎雄輔さんを実行委員長に、末永を塾長として企画されたものです。当日は、新聞(西日本)やライフさせばの報道で10人が集まりました。

内宮崎市の費田岳和さん(日本の石橋を守る会会員)は朝4時に出発され、参加されました。又、大学からも、3名の学生が参加。

全員で石積みの基本を学習した後、石を運び、10時にいよいよ石積みが始まりました。

今回、径間が1m20cmということもあり、支保工は土で造ってみました。その上に石を並べていくのですが、びくともしない組み合わせのために石を選び、何度もやり直すなど、メンバーも大変な疲れのようでした。しかし、何と昼前には一丁の石積みが完了しました(写真①)

壁石を積み、土砂を入れると橋の形が見えてきた(写真②)。橋面に敷石を並べる(写真③)これで一応の完了。



しかし、問題はこれから。支保工を抜くという作業が残っている。うまく石を積んでいなければ、支保工を抜くと橋は崩れる。支保工を作っているために、いったん崩すとすべて土台からやり直さなければならない。

支保工の中に埋め込んでいた4本の丸太を慎重に抜いていく(写真④)。支保工に丸太を抜いた後の穴がほげた。が石橋は崩れない。ひょっとして成功か!? 支保工の土を掻きだす(写真⑤)石が崩れてくることもあるので慎重を期さねばならなかった。が同時に早く支保工を抜いた石橋が見たいのか、作業は早い。そして完成したのが2時丁度だった。費田さんにデータをとってもらう。橋長2m20cm、橋幅0.75m(写真⑥)

そしていよいよ渡り初めとなった。メンバーが次々に渡る(⑦)。橋はびくともしない。

「夢追橋」 新しい石橋の名勝地に

この橋は、「夢追橋」と命名されました。橋名は川から拾い上げた石に刻みました。捨てられていた石臼に乗せると、ちょうどポットホールのようなです。新しい名勝地になりそうな気配です。

※上記情報は「夢追橋」検索、「長崎県の石橋」→「佐世保市吉井町」→「夢追橋」でご覧いただけます。(費田さんのHP)

